

< 運営推進会議における評価 >

【事業所概要】

法人名	社会医療法人 松涛会	事業所名	看護小規模多機能 ケアタウンやすおか
所在地	(〒759-6640) 山口県下関市横野町3丁目1-2		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

法人の病院や他の医療機関と、連携強化を図り、医療・看護・介護・福祉が一体となり、医療ニーズがある重度の方を地域で支えることで、利用者・家族の安心に在宅での生活が営めることができる。

医療ケアが必要な方も、介護・看護の両面からサポートすることで、利用者や家族の状態やニーズに合わせた支援や在宅生活を継続することができている。また、登録利用者以外の急な宿泊サービスを提供することで医療ニーズのある方への対応を行っている。

高齢者や介護が必要とするひとが、住み慣れた生活が継続できるなかで、自己決定を尊重し、自立支援が実現できるよう一人ひとりに合ったケアを行っている。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 12 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(17) 人 ※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 1 月 17 日	出席人数(合計)	(10) 人 ※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (3) 人 <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1) 人 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1) 人 <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (3) 人 <input type="checkbox"/> 利用者 (1) 人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1) 人 <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (___) 人 <input type="checkbox"/> その他 (___) 人		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イレギュラーな事態に対する対応や優先順位が分かり理念や行動指針に基づいた自律的な行動が取られる様、理念を共有し浸透させていく ・事業所で取り組んでいる研修への推進 (喀痰吸引研修) 自己研鑽の年間計画に研修参加目標を取組計画的に学習してスキルの向上を図っていく ・職員参加型での改善策への合意形成が行える様、働きやすい職場作りへの課題や方針が立案できるようにメンタルゲルス制度についての研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念綱領や理念について、職員全体が同じ目標へ意識づけを行うことにより、介護・看護の多角的視点を互いに理解し協働できるように取り組んだ。 「尊厳を守るケア」が実践できるように、接遇マニュアルの見直しを行い、年に2回のマナーチェック・虐待チェックシート・家族からのアンケート・身だしなみチェックを行い事業所全体で接遇スキルの向上を行った。 ・衛生委員会の立ち上げ。働く人の健康面や労働災害の防止を目的として職場の安全・健康を確保するため月ごとテーマを決め、話し合いの場を設け調査や審議をし、働きやすい職場づくりを行った。 ・メンター研修 職員3名参加 	<p>「尊厳を守るケア」を行う為、接遇マニュアルの見直しを行い接遇スキルの向上の取り組みが実施されているので良いと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全回の改善計画を基に具体的な取り組みが実施されているので良いと思います。 ・働きやすい職場環境に向けての取り組みについて、継続されており、今後も職員の意識向上や働きやすい環境作りを行って下さい。 ・看取りケースが少ない事は看多機での看取りは課題と考慮されます。それ以外の「前回の改善計画にたいする取組は順調に推移」されていると判断します。

<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の重要なスキルとしての「介護過程の展開」の一連の流れが分かり実践に繋げていくことができるようになる。 ・利用者担当制に看護職・介護職共に責任感・達成感を持つことができるように支援していく 	<p>在宅での生活が安心して継続できるように入所機・退院時は看護師もカンファレンスに参加し、退院後の身体状況や生活の様子について、医師・家族に随時連絡を行い、急変時や本人・家族のニーズに柔軟な対応ができるよう、介護・看護の両面からサポートできるよう連携を図ることに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インシデント・事故報告書迅速に作成し、再発予防シートで職員間周知することで終わらず、評価しPDCAサイクルを取り入れシートの見直しを行った ・教育委員会に職員名1名参加し、「介護過程の展開」について学び、知識の向上を図り職場での支援につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染時にも各事業所が連携し、事業所の運営ができた事は評価できる。 ・BCPの作成や防災訓練・シュミレーションが実施できた点は評価できる。 ・定期的なカンファレンス等の実施に情報共有および急変時等医療・看護・介護が協力しながら支援行えている。
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に対して看護マニュアル作成を通じた育成を実施 ・勉強会で看護師から介護職への疾患について等のレクチャーの実施 	<p>看護マニュアルの見直しを行い、入職時は活用し、業務改善にも役立てた。 月1回の感染委員への参加で、法人内の感染状況の把握や感染予防について情報共有することができ、職員への伝達も行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月各事業所へのガウンテクニックの周知することができた。 ・毎月2回 安岡病院・他事業所参加しWEB会議を行い、利用者の状況や住み替えの方の相談を行い、連携を図っている。 看護学生の実習の受け入れを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種にわたる連携強化により、介護・看護職との他機関・多職種の関係は確実に強化され利用者等へのサービス提供がなされていると考慮します。

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族・事業者・専門職に向けて看護規模多機能のサービスを分かりやすく説明できるツールとしてパンフレットを見直し有効に活用していく。 ・医療ニーズの高い高齢者を支援している事業所だと認識していただける様、看護・介護に関する相談等の取り組みを地域へ向けて発信していく。 ・ 	<p>介護職員による半固形胃瘻の現地研修を2名の職員が受講し医療的ケアのスキルアップを図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場勉強会で「地域包括システム」の構築することを通じ、医療・介護の協働しこれからの地域ケアの理解をふかめた。 ・6月安岡海岸清掃職員参加 ・地域行事への参加 ・新規事業立ち上げの見学・情報共有を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの見直しにより、分かりやすく説明することで、地域への周知に努めたことは良いと思います。 ・誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画のために事業所の役割・施設等の特徴を分かりやすく説明する為に、いろいろな活動をしています。又、事業所・施設の活動内容も啓発活動にそのような研修を行っていると考えます。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)</p>	<p>BCP(業務継続計画)の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の向上・できていることの継続と振り返り ・基本的な接遇の習得 	<p>4月、BCP(業務継続計画)が完成。</p> <p>防災訓練時、BCP計画のシミュレーション行い、施設全体での取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス集団後BCP感染委員会を開催し、振り返り、反省点を話し合い、計画の見直しを行った。 ・外部研修・内部研修に積極的に参加し、事業所全体に持ち帰ることで、職員全体の知識・技術向上につなげることができた。研修参加しやすい風土づくり ・接遇委員を中心になって、勉強会等で、接遇マナーについて学びを深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPの早期作成・シミュレーションを行い、施設全体で取り組んだことは評価できる。 ・コロナ集団感染後の振り返りを行い、計画の見直しを行ったことは良いと思います。 ・接遇マナー向上についての取り組みは、日々の意識が重要だと思います。継続して取り組んで頂きたい。 ・を自己評価で足りている部分は更なる強化を、足りていない部分は、日々研修して改善していく姿勢があります。 	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
1. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>事業所での理念等の理解はできているが、より深い理解に努め、職員の意識・目標が同じになり実践に繋げていく必要がある。</p> <p>看護小規模多機能の特徴を理解し、専門性を習得するうえで、介護・看護の専門性を活かし、キャリア形成の構築に努める。</p> <p>職員の体調管理・自己管理を行い、業務が遂行できるような環境づくりが必要である。</p>	<p>理念・行動指針を明確にし、業務マニュアルの作成・職員全体が同じ目標を持ち、目標達成できる組織づくりを行い、業務やケアの標準化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護・介護の専門性を高めていけるよう、法人内・外部研修への積極的な参加・自己研鑽に取り組み組織全体のスキルアップを図る。(勉強会での発表) ・利用者の尊厳を支えるケアの実現できるよう、各委員会の設置、業務改善や接遇マナーの周知できるようなケアの質の向上に繋げる。
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>医療ケアの必要な方の在宅生活を継続できるように介護・看護で随時対応し、情報共有はできているが、更なる生活の支えとなるサービス、状況変化にも対応できるようにスキルアップを図る</p> <p>看護・介護とも毎月のカンファレンスや情報共有はできているが、ケアプランの計画や状態観察から質の高いサービスを提供するために多職種連携と協働が必要となることや利用者のQOLの向上につながる支援の提供までには至っていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・看護・介護が協働してサービスが提供できるよう、自立支援・個別ケアの理念実践に向け、「ICF」の概念を活用し、「介護過程」を学び情報の共有につなげていく。 ・法人内の感染部署会議へ参加し感染対策やリスク管理・職員への研修を行い体制の強化を行っていく。 ・看護師から介護へ看取りケアができるように、医療的アプローチと看取りケアが一体的に実施できるような体制づくり、医療・看護・介護で利用者・家族の望む支援を目指す。 ・本人・家族の意思を尊重した上で、身体的な苦痛や精神的なストレスを緩和し、できるだけ穏やかな生活を送れるような看取りの体制を強化していく。

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)</p>	<p>医療ニーズの高い中重度の要介者が住み慣れた地域で自分の居場所ができるように、看護小規模多機能のサービスが利用しやすくなるような方策やサービス内容を明確化していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットや通信での情報発信を行い、地域交流を図る。 ・BCP を実施・運用できるよう事業継続マネジメント(訓練・評価・見直し)を行い、マネジメントサイクルを繰り返し行い ・地域への行事の参加
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・BCP の策定は完成できた。シュミレーション・職員への指導・見直し等行い、継続していく。 ・適切なケアを提供するために虐待防止・身体拘束研修を行い、自立支援・尊厳についてチームケアの強化を図っていく。 	<p>防災・感染への知識を高め、今後地域との連携が図れるような体制づくりを目指す。(登録制の検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BCP を実施・運用できるよう事業継続マネジメント(訓練・評価・見直し)を行い、マネジメントサイクルの繰り返し体制を推進していく。 <p>・虐待委員会の設置・指針の整備・研修の実施・ストレスチェックを行い虐待防止の取り組みを図る。</p>	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	1	15	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者及び家族とのコミュニケーションが取れていることが、サービスの向上につながっていると思います。 ・理念を理解し明確化して、実践されていることが「おおよそできていると自己評価できておりすばらしい ・理念等の内容は組織としては、明確化されている。実践を多く積む中で、理念等が実現されると思われます。 ・理念等の明確化と実践が概ねできていると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ① 医療生活援助など利用者の希望に沿って看護・介護職両面からサポートできる ② 在宅の看取りを看多機に求められているものを具現化しようとしているが、法人が病院であることでケースが少ない。 ③ <u>看護師による生活リハビリや口腔体操やレクレーション活動を行い、機能向上に努めている。</u> ④ <u>レスパイトケアの対応し家族の負担を軽くし、安心を得ている。</u> ⑤ <u>地域ケアの中での看多機の特性を生かし、医療・介護が連携し生活をサポートできるよう努めている。</u> ・理念は事業所内に掲示している。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	1	15	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な勉強会の開催が、各職員の技術向上と職員間の意思疎通に役立っていると思います。 ・事業内の個々の職員が理念等の内容を理解し実践していくことで少しずつできている。 ・勉強会を行ったことにより、職員が理念についての理解を深め同じ方向で業務がなされていると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所内に理念を掲示しており職員が各自理念の徹底を行っている。 ・全職員に理念の内容の理解を深め、職員1人1人(尊厳を保つケア)の実践ができるように勉強会を行った。 ・勉強会にて専門職の倫理綱領や理念について再度、理解を深め、職員全体で同じ目標を持ち、支援に努めた 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	3	12	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した目標管理シートを基に、引き続き、各職員の充足度を高めて頂きたい。 ・職場内の勉強会・自己研鑽を通して、個々の目標管理シートの作成を図り、スキルアップ向上の努力で年間目標がなされていることが分かります。 ・個別目標に向かって着実にスキルアップできていると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] スタッフ個別に目標管理シートを作成し毎月職場内での勉強会や、自己研鑽を行ってスキルアップに努めている。研修や資格取得などの情報などの交換をして年間目標を立てている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	1	13	3	0	<p>運営推進会議においても、研修内容についての報告を受ける機会が多く、積極的に取り組んでいる様子が見て取れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常業務以外でスキルアップの為の研修や勉強会に参加することはとても大変な事だろうが、是非、やってほしいことである。 ・職員の専門技術向上に努め、研修を絶えず行っていたことがよく分かります。 ・積極的に内部研修に参加し、その内容を発表することで、職場全体の専門技術向上につながっていると感じました。 	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>毎月、自己研鑽を行っている。会議や勉強会で外部研修に参加した内容を発表することで職場全体の知識・技術向上に努めている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	1	15	1	0	<p>自己評価の高さからも、ミーティングや伝達ノートの活用が、利用者の体調や状況などの情報共有に大変有効であることが伺えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互間での連絡報告が良き介護になると思う。自己評価でおよそできているは望ましい ・介護職・看護職間の情報共有が確保されることにより、利用者へのサービス向上が図られていることがよく分かります。情報共有・情報交換は大切です。 ・カンファレンスにより、各専門職間の情報共有が図れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>毎朝のミーティングで報告があり具体的な変更がある際には看護職・介護職を交えてカンファレンスを行い情報の共有を図る。又、不在の場合も伝達ノートを活用することで確認していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師会議を月1回行い、情報交換を行っている。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	3	14	0	0	<p>運営推進会議で得られた意見等の反映</p> <p>運営推進会議において、利用者にふさわしいサービス内容についての意見を募るなど、業務への反映に努めていると思います。</p> <p>・提案が少しでも反映されていけば励みになります。</p> <p>・運営推進会議が再開され、情報共有がなされている。より良いサービス提供等に反映されるように継続して取り組んで下さい。</p>	<p>✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>運営推進会議の回覧を行い、ミーティングでの話し合いの場を設け、検討を行いサービスの提供に反映されている。ホームページにも記載されている。</p> <p>・運営推進会議での情報は議事録で回覧し要望や意見は業務に反映できるように努めた。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い ない	全 く で き て い ない		
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	5	10	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ガウンテクニック研修等により、利用者だけでなく職員の感染も最小限に抑えるなど、安心して働くことのできる就業環境の整備につながっていると感じました。 ・「よくできている」「おおよそできている」が80%以上なのは就業環境が良いのでしょう。 職員的能力向上の支援、精神的負担の軽減、労働時間の配慮といった就業環境の整備が改善していけば、職員が長く就業していける人助けになっていくと思います。これからも継続発展することを望みます。 ・職は環境改善に積極的に取り組まれていると思います。職員や家族の体調等による急な休みも良く対応されていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員的能力向上の支援」、「精神的負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます ✓
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回のストレスチェック、健康診断の実施。外部に研修などで参加の際は有休等で参加する事が出来た。 ・職員の急な休みなどにも対応出来ている。 ・看護学校などに通いながら安心して働くことが出来る。 ・昨年からはメンター研修を行い、2年目となることで内容を深めることができた。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	5	12	0	0	<p>・ヒヤリハット事例の情報共有が、重大事故の発生防止につながると思います。</p> <p>・利用者のタイムリーな情報を共有できていると全員評価しているので安心です</p> <p>・情報は刻々と変化します。その情報を共有するため、「伝達ノート」、「直接口頭」、「問題発生ときはすぐに報告書の作成」といった手段をとることは、情報の共有、再発防止のために良い方法です。</p> <p>・全職員ができていると評価されている、スタッフ間の連携が図られていると感じた</p>	<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	4	13	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会を含む様々な対策が、介護事故発生の抑制力となっていると思います。 ・事故に対しての予防対策は評価から見て充足しているようです。 ・各種の事故に対する予防・対策として、いろいろな方策を準備することで安全管理を図っていることは、事業的での事故を未然に防止することができるばかりか、たとえ事故が発生しても最小限に押さえることが可能であります。 ・今後も迅速に話し合いを行い対応してください。 	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 事故が発生した場合は迅速にインシデント報告書を作成し、対策についての協議、職員会議やカンファレンスなどで話し合いなどを行い、再発防止シートを作成し全体ミーティングで評価をするようにした。 ・法人の「個人情報保護」の研修を受け勉強会にて職員全体で理解を深めた。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	6	10	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や訓練で洗い出された課題を BCP に積極的に反映されながら、効果的に見直し、検証を行っていると思えます。 ・「緊急時におけるサービス提供のための備え」は、緊急時対応の最重点事項として常に研修実践されています。 ・緊急連絡網の適宜見直しを行ってください 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>年2回の避難訓練やBCP災害計画の作成とシュミレーションを計画通り実施できた。各事業所と連携や緊急連絡網の使用、フローチャートなどが作成されている。避難訓練時にはBCPの書類の見直しを行った。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	3	13	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・家族を含めたアセスメントの実施が、利用者の介護サービス向上に直結すると思います。 ・看護小規模多機能居宅介護の機能が果たしている。 ・継続的サービス提供が図られるよう、災害等の緊急時においても、その対応策がきちんと計画・立案されています。と同時に発生時にすぐに対応できるよう常日頃から関係機関等で対策共有し続けることが大事であります。 ・在宅利用者の生活状況の把握は居宅サービス計画等を作成する上で重要な業務であるため感染対策上実施してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	5	11	1	0	<p>引き続き、両職種間の意見交換を行い、情報共有に努めて頂きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職・看護職はそれぞれ役割分担がありますが、役割外情報をそれぞれが共有することによって利用者の利用効率が上がっていくと思います。共有にいたる方策も妥当と言えます。 ・申し送り、情報共有している内容を記録に残し評価につなげると更に良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
① 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	4	13	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者及び家族の意向を取り入れながらの目標設定には、工夫がもとめられていると思いますが、引き続き、適切な支援をお願いします。 ・利用者等の目標達成計画が利用者・家族の意思が反映したものであることが大事であります。 ・今後も家族との関係性を保つ為、コミュニケーションを取ることや家族の思いを汲み取ることを意識して下さい。 	<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>サービス担当者会議やアセスメントにより本人、家族の希望を把握し目標の設定を行い達成に向けた計画が作成されている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	3	14	0	0	<p>・引き続き、利用者の能力を活かした生活が維持できるような計画作成とサービス提供をお願いします。</p> <p>・13 を具体化したものとして、利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営むよう個別ケアを含む計画が作成されている。</p> <p>・利用者の尊厳や能力に応じ地域において自立した日常生活を営むために、その人らしさを大切にした計画の作成を今後行ってください。</p>	<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>アセスメントにより明らかになった本人の有する能力を活かした維持向上を目指しその人らしい生活が送れるように支援できる計画が作成されている。</p> <p>・看護師による、生活リハビリや口腔体操やレクリエーション活動に参加ができるよう個別ケアを実践した。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	2	15	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・看護小規模多機能の特性を生かしたリスク管理への取り組みを継続してください。 ・高自己評価、看護・介護の情報共有の大切さが充分理解し、計画作成ができています。 ・介護・看護が連携をとり家族の意向を確認しながら情報を共有し、利用者の今後の状況変化とその対応策を計画することが大事であります。 ・リスク管理を踏まえた計画作成ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	2	15	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種間の連携を生かしたチームアセスメントが、看護小規模多機能の強みであると考えます。 ・自己評価が高く、上手くしていると思われる。 <p>利用者等の状況変化を早期に把握し適宜に計画に反映のため、主治医等への報告・連携の計画書の適宜変更ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期の把握と計画への適宜反映が行われています。 	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	0	16	1	0	<p>・訪問サービスの必要性が生じた際には、訪問による在宅生活状況の把握に努め、常時職員間での情報共有をお願いします。</p> <p>・利用者・家族の生活状況の変化を継続的に把握するため、利用者宅を訪問するなどの対応策を常に検討されています。(現在は利用者宅への訪問の対象者がいなくても)。</p> <p>訪問ケアの提供を行い、生活状況を継続的に把握できるとよいと思います。</p>	<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>現在、利用者宅への訪問の対象者がいないが、以前は対応していた。家族の生活状況や、利用者の ADL 状況について、カンファレンスを通して継続的に把握している。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	2	14	1	0	<p>・毎月の主治医の連携が、利用者及び家族のサービスに対する充足度をより高めていると思います。</p> <p>利用者等の「状況変化」・「目標達成状況」の情報共有が、主治医・看護職等関係職種でおおむねなされています。</p> <p>状況の変化や目標達成状況等を記録にしっかり残し連携を図っていけるとよいと思います。</p>	<p>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>状況に変化があれば、主治医に報告を行っている。外来やリハビリに対して主治医を通して情報の報告など行っている。</p> <p>・毎月主治医より、訪問看護指示書に伴い、看護計画書・報告書を提出し連携を図っている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	6	10	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師による介護師への研修の実施は、柔軟なサービスの提供の為には非常に効果的だと思います。 ・コロナ・インフルエンザの中、専門性が活かされて効果を上げていると思われる。 ・介護職・看護職の専門性をいかした柔軟な役割分担がなされています。 ・申し送り時の対応、緊急時の対応、相互の情報共有のあり方などが勉強会を通して研修されています。 ・勉強会や研修を定期的に行い、専門性を活かせる対応を続けると良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・申し送りの際に、1日の業務などの確認を行っている。 ・夜間は急変時対応できるようオンコールにて対応している。 ・それぞれが専門分野を中心に業務を行っている。担当利用者に分け、責任をもって情報共有やケアのあり方について関わりを持っている。 ・勉強会にて看護師の専門性を活かし、介護職員に基礎知識やターミナルケアについて研修を行った。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きていな い	全く できてい ない		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	3	14	0	0	引き続き、相互の専門性を生かした勉強をお願いします。 ・高評価から、上手くいっていることがわかります。 ・毎日のカンファレンスの中で日々の変化についても、介護・看護の両職種で連携し対応策を検討できると良いと思います。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・毎月のカンファレンスを実施、情報の共有を行っている。必要時には報告、相談をしている。 ・その日の申し送りや伝達ノートに記入をし情報の共有を行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	4	12	1	0	<p>引き続き、看護職の専門職を活かした、介護職への情報提供・指導をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価からまずまずできているようです。 ・各職の専門性を生かした柔軟な対応によるサービスの提供・更なる向上のための勉強会・相互の情報交換が施設の運営に行かれさせています。 ・看護師からの指導や情報提供だけではなく、提案等介護職と共に検討しながら、知識の向上に努めていけると良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>伝達ノートなどによって行っている。ケアの仕方や観察の視点などの指導や情報提供があり、共に声を掛け合い連携して業務にあたっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染委員会の情報や感染委員会主催の勉強会やシュミレーションを行い、リスク管理を学ぶ場を設けることができた。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	13	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい説明の積み重ねが、利用者のサービスへの理解や不安解消につながっていると思います。 ・21 で示された施設の運営方針が見学・相談等・パンフレットで入居者・家族・入院希望者等に示されています。 ・利用者の理解についてどのように把握していくかをその方に合わせて行っていると良いと思います。 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族にわかりやすく説明し理解を得ている。他職員と協力するなどして理解を得られるように努めている。 ・毎月の看護計画の作成を行っている。 ・見学や相談等、事業所の特徴や提供できるパンフレットを作成し、分かりやすく説明するようにしている。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価結果から、各従業員の利用者理解への意識の高さが読み取れます。 評価からうまくいっているようです。 施設の運営方針及び利用者等の「在宅での療養生活」の上で留意すべき点を分かりやすく伝え家族の同意を得るなど、理解を深めよう努めています。 利用者の状況に合わせて理解を得るようにしてください 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者に応じてわかりやすい言葉かけにて説明し理解を得ている。医療的、専門用語など使わずわかりやすく伝えるようにしている。 作成したサービス計画書・看護計画書は家族が来設された際に同意を得ている。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	15	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・医療処置への対応は、利用者及び家族が不安などを抱きやすいと思いますので、引き続き、きめ細やかなカンファレンスをお願いします。 「およそできている」が多数評価であるが、改善点があるのでしょうか？ ・利用者の医療処置・危機の取り扱い・家族の介護方法をより具体的にわかりやすく説明しています。 ・利用者や家族に分かりやすく説明し、いつでも分からない事を聞きやすい環境を整えていると良いと思います。 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者等に応じてわかりやすい言葉掛けやケアの方法を実践するなどして理解を得ている。理解が難しい方には家族の方に説明を行い理解を得ている。 ・家族とのカンファレンスを行っている。ケアの必要性など理解しやすい言葉で伝え家族からの理解が得られなかった場合には行わない。本人の状況変化時は家族へ連絡を行い満足できるようなケアの提供に努めた。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	5	12	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・状況変化に応じた状況把握を継続し、終末期等の対応方針への適切な反映をお願いします。 ・重度化した場合の事も十分に話し合いができています。 ・利用者本人の希望や意向をサービス提供に反映することは、状況変化があった場合でも話し合いを通して計画の見直し等の対策を取っています。 ・日頃から家族とこまめな情報共有を行い、利用者の思いを知り、サービス提供へ反映していくと良いと思います。 	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	5	12	0	0	<p>・必要に応じて、在宅生活でのリスクに対する対応策の検討と共有をお願いします</p> <p>在宅の療養生活の可否の基準をあらかじめ想定し対応方針の情報を家族等と共有している。状況変化時には主治医への報告・相談・家族への通知で対応しています。</p> <p>・今後も発生しうる様々なリスクに考慮し、関わる全員が同じ理解・方向性で居られるよう相談・共有を続けると良いと思います。</p>	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>入所時のカンファレンスにて説明し、方針があらかじめ決まっている。状況変化時には主治医に報告相談、家族にも伝えている。対策については主治医、家族にコメディカル情報の共有を行っている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	1	13	3	0	<p>必要に応じ、家族を含めた終末期ケアをお実施をお願いします。</p> <p>・終末期ケアについて、「丁寧に説明し」「記録に残す」ことは大体できていると思いますが、これからの事例に学ぶことが多いと思います。</p> <p>・適切な時期を見計らい説明したことや対応策を記録に残すことを続けてください。</p>	<p>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>終末期ケアについては適切な時期を見計らい説明や対応方法を説明している。現在は終末期の方の入所はない。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	5	12	0	0	<p>引き続き、カンファレンスへの参加による情報共有をお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よくできていると思われま す。 ・利用者が退院・退院前の状態を維持しつつ、円滑に在宅生活をおくっていく為にはカンファレンスの参加、施設等と情報共有が大事でありそれがなされています。 ・退院前だけでなく、病院・施設等の継続した情報提供も行えると良いと思います。 	<p>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	6	11	0	0	<p>・必要に応じ、家族等介護者の状況変化に対する対応方針についても相談・状況共有をお願いします。</p> <p>・施設側は緊急時に入院・入所の可能性がある利用者にあらかじめその対応方針を専門職・家族に相談し同意を得ている。そして継続的に情報を共有していることは大事です。対応が早くできます</p> <p>・状態の変化時こまめに情報共有し、早めに対応方針等を迅速にできているので良いと思います。</p>	<p>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</p> <p>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>入所時、緊急時の対応や方針など主治医家族と相談し同意を得ている。状態の変化などあれば看護師同士で情報共有し主治医に相談できている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	4	13	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・看護小規模多機能サービスにおいて、必要不可欠な体制なので、引き続き、対応をお願いします。 ・高評価です。 ・緊急時に即座な対応が可能な体制が構築されています <p>①地域の医療機関等との連携を図る準備の確立 地域医療の受け入れ体制の把握これに対応する施設側の準備体制の確立 迅速な行動につながります 緊急時に直ぐ対応できる体制がとれている。</p>	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医や地域医療との受入れ体制が取れている。緊急時や休日、夜間についても電話当番看護師などが対応するなどの体制ができており、法人の病院にて、指示を仰ぎ対応することができる。 ・各利用者に患者情報提供シートが作成されている、緊急搬送先などの情報が記載されている。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	3	12	2	0	<p>毎回の運営推進会議において、利用者及び利用者家族を含め、各参加者による活発な意見交換が行われていると思います。また、地域行事への積極的な参加が、事業所の地域貢献につながっている印象です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて運営推進会議に参加して、地域にある施設について知る機会になりました。 ・運営推進会議では、施設側の活動報告後は色々な問題について提案・発言がありそれについて議論を深めていくことが良くあります。 ・自治会の行事の参加などにより、情報共有しやすい関係づくりができています。 	<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容] 運営推進会議の定期的な実施を行っている。会議には介護職、看護職がそれぞれ参加している。運営推進会議議事録の作成し職員への閲覧、回覧もおこない情報や伝達など行われている。 自治会行事への参加を重ね、当施設の役割を明確にできるよう調整した。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	およそ でき て い る	あまり でき て い な い	全く でき て い な い		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができ るような方法での情報発信 が、迅速に行われている	6	8	3	0	<p>・運営推進会議の資料について、行事の写真等を多く取り入れ、施設の取り組みが分かりやすく作成されていると思います。</p> <p>「誰でも見ることができる方法での情報発信」をしても、誰でも見ているわけではありません。要は、情報を見つけ、関心を示す方が一人でも増えていけばよいと思います。</p> <p>・入口に設置する情報発信方法は誰でも見やすいと思います。通信での発信もわかりやすいと思います。</p>	<p>✓ 「誰でも見ることができ る方法での情報発信」と「迅速な情報 発信」の2つの視点から、充足度を 評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容] 運営推進会議の際には看多機通信を使用し施設の取り組みなど紹介している。外部評価の公表や紹介など事業所入口に設置してあり閲覧が可能。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	1	12	4	0	<p>・外部評価についても HP 上で公表されているため、いつでも誰でも閲覧可能となっている点が評価できます。</p> <p>・サービスの概要や地域において果たす役割について、いろいろな手段で啓発活動をしていることは、情報に関心を持たれている方にとっては大変有益であります。</p> <p>・定期的なホームページを更新し地域への啓発活動は続けてください。</p>	<p>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</p> <p>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</p> <p>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>ホームページに閲覧、広報誌や施設パンフレットを新しく更新・作成し、積極的 地域へ出向き、啓発活動を行った 家族には看多機通信の毎月の発行と配布 を行っている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	0	10	7	0	<p>可能な範囲での対応をお願いします。</p> <p>・施設側のスタッフより、利用者が看護小規模がどうゆう人が利用できるかが知られていないような気がします。</p> <p>・登録以外を対象とした訪問看護の実施展開は施設従事者の配置・人員等の問題を含めこれからの課題であると思われます。</p> <p>・今後も積極的な対応されると良いと思います。</p>	<p>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</p> <p>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>
		[具体的な状況・取組内容] 登録以外の急なショートステイ利用の受け入れを行った。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	7	8	2	0	<p>引き続き、受入れ体制の充実に努めてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療ニーズの高い要介護者について、受入れ体制を整え、積極的に受け入れることが望ましが、全てを一挙にしていくことは施設側の事情としても難しい面があると思われる。その中で「痰吸引」については積極的な受け入れをしていると思われる。 ・受け入れ時は、より多くの職員が痰吸引の実習に参加し体制をさらに整えていけると良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>痰吸引の資格を取得した介護職員がいる。又、現在も介護職員が痰吸引の実習に参加している。受入体制はできている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	0	0	6	11	<p>可能な範囲での対応をお願いします。</p> <p>分かりやすいマニュアル作成と勉強会を行うと良いと思います。</p>	<p>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</p> <p>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>気管支切開、気管挿管による受入体制については整っていない。</p> <p>本格的な人工呼吸器を使用する前の 24 時間酸素吸入が必要な方の受け入れなど以前は行っていた、看護マニュアルなどの作成を行っている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	2	9	2	4	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と家族の希望に応じた看取りが支援できるように、引き続き、受入体制の整備をお願いします ・評価にばらつきが見られません。利用者の希望次第というところもあるのではないかと。 ・具体的な看取りマニュアル作成はできているが、施設で継続的に実践していく体制づくりが今後の課題である。 ・看取り支援の体制を整え、今後も家族の意向もしっかり聞き、いつでも受け入れできる積極性と安心を提供してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>病院や医師との連携、劇薬の管理、マニュアルの作成など受け入れの体制は整えてあるが、法人が病院であることで、家族の気持ちの変化等で本年度は看取りの支援には至っていない。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	0	13	4	0	<p>今後も、地域包括システムの拠点として、ご協力をお願いします。</p> <p>・行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針・計画の内容を理解するには、勉強会を行うこと行政当局の分かりやすい説明を求め、理解している方の話を聴くことなどが考えられる。</p> <p>・勉強会の実施、研修参加を続け、職員皆がしっかり理解できるように努めてください。</p>	<p>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	1	9	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時間等、事業所・利用者の負担を考慮しながら、可能範囲でのサービス提供をお願いします。 ・特定の建物等に限定しないサービス提供（地域に積極的展開）は、体験・ショートステイ利用を含め看多機の今後課題である。 ・地域全体の在宅療養を支援できるよう積極的にサービスを提供できるよう努めて下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>現在は対象者がいない。体験やショートステイの利用受入など行っている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	1	11	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体に対して避難訓練への参加を提案するなど、まちづくりにも積極的に取り組んでいると思います。 ・感染や災害時 BCP の作成、災害時のシミュレーションの実施、感染時 BCP の勉強会実施し、安心して暮らせるまちづくりの為の方策をとりいれています。 ・地域における課題や改善策の提供を関係者に行えるよう、多様なネットワークを利用し続けていけると良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>感染や災害時 BCP の作成や災害時のシミュレーションの実施など行っている。感染時 BCP などの勉強会など実施もおこなった。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	0	6	9	2	<p>利用者に対する、関係者全員の介護力向上の為、引き続き、家族や近隣住民との関りを深める取り組みを進めてください</p> <p>・家族等への関わりはともかくとして、「近隣住民に対する介護力の引き出しの向上の為の取り組みはこれからの課題です。</p> <p>・利用者や家族のみならず近隣住民と関りを増やし、介護力を最大限に高められるよう取り組めると良いと思います。</p>	<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>① ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>[具体的な状況・取組内容] カンファレンスの実施や看護計画に沿って実行できている。 利用者のニーズを把握し、取り組むべき課題、目標が達成できるように支援し、評価を行った。</p>	<p>自己評価結果からも、利用者について、質の高い計画目標を作成・達成していることが伺えます。</p> <p>・利用者のニーズの把握がしっかりできており、計画目標が達成できており素晴らしいと思います。</p>	<p>✓ 「計画目標の達成」について、評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>医療との連携が取れ、夜間でも当番看護師が対応するなど24時間を通して支援を行う事で安心感が得られるように心がけた。</p>	<p>医療連携や24時間対応等の充実した支援より、引き続き、利用者と家族の安心感が得られるようなサービスの提供をお願いします。</p> <p>・医療が必要な状況下でもサービス提供により在宅の療養生活が継続できる事は利用者にとっては安心できます。</p> <p>・24時間いつでも対応できる環境下で医療との連携も図れているので良いと思います。</p>	<p>✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>⑤ 看取りの希望者はいない</p> <p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>医療機関、主治医に相談や多職種との連携など行い対応可能な方への提供を行っている。看取り希望される方は少ないが利用者・家族の意向や希望に沿うよう取組安心を得られると思う。</p>	<p>平素からの多職種間の連携と、利用者及び家族との相談体制の構築が、看取りに対する安心感につながると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの課題である。 ・看取り支援の体制を整え、在宅でも看取りができる安心感を持っていけるよう情報共有を続けていきたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」